

# ウメノキゴケ

菌界 地衣類 ウメノキゴケ科



指標性と選定理由:

大気汚染状況の指標。

大気汚染に弱く、古くから指標生物として分布調査が行われてきた。

調査に適した時期: 通年。

生息環境と調査のコツ: ウメノキゴケは、露出した古い岩石、石仏の表面や、日当たりの良い位置に成育する樹林の幹に見られる。

近似種: ナミガタウメノキゴケ、マツゲゴケ

識別点: ナミガタウメノキゴケには裂芽がない。フリル状に波打つ裂片の縁に粉芽をつける。

マツゲゴケの裂片の先には粉芽塊か、マツゲのようなシリアをつける。良く見ると網目模様がある。

特徴: 直径20cm程にもなる葉状型の地衣類で円形の輪郭がはっきりする。裂片は丸く裏面の周囲は褐色。

中央部に顆粒状の裂芽が密生し、この裂芽で増える。

裂芽

網目模様(マキラ)

シリア

マツゲゴケ

ナミガタウメノキゴケ

